

平成27年2月9日

平成26年度学校関係者評価委員会

大阪市立デザイン教育研究所

開催日時

平成27年2月9日 月曜（研究所展覧会期間）15:00～16:00

参加委員

大阪商工会議所 北支部事務局次長
大阪市立第二工芸高等学校長
大阪市立デザイン教育研究所 後援会長

学校側

大阪市立デザイン教育研究所 所長
大阪市立デザイン教育研究所 准教授

学校関係者評価委員会

1 高校生（工芸・第二工芸）と研究所学生との連携プロジェクト視察（司会者誘導）

15:00～15:30

京阪神動物園めぐりプロジェクトの視察

大阪市・京都市・神戸市の三動物園をめぐるイベントのグッズを提案するプロジェクトで、表面的なデザインではなく企画を含めた提案力が求められる。

（所長室へ移動）

2 委員会

15:30～17:00

議長選出 友田

1号議案 高校との連携プロジェクトの視察の件

全体の感想

- ・ 学生らしいエネルギッシュな活動になっている。
- ・ 前年度もそうであったが、大変うまく進められている。
- ・ 一年の成果が見て取れる。
- ・ 発表時間の5分は短いのではないか。
- ・ 展覧会の展示場も事前に見たが、今年も内容が整理されわかりやすく素晴らしい。

各委員の発表へのコメント

- ・ ターゲットの絞り込みが甘い。園児・児童・中学生に絞ってみてはどうか。
- ・ カップルはどうするのか。ファミリーにするべきでは。
- ・ 考えるための条件を絞る方がよい。万人受けする必要があるのかどうか。
- ・ 広げすぎずに、話題を絞り、しっかり議論する方がよい。
- ・ 動物の生態を話題にすることはできないか。食べているところなど。

2号議案 今年度の報告

今年度のカリキュラム

(別紙より説明)

プロジェクト（プロジェクトベース・チームベースで社会の要求に対応し、デザインで問題解決する）を中心に組み立てる。ベースになる力の養成に注意を払い、その上にチームで取り組める力をつける。

(各委員)

プロジェクトによる問題解決の全体を見た、山登りに例えられるようなわかりやすさが必要。特色づけ。

話し合いが構造を持たず、トーク的（井戸端会議的）になるなら、班員が様々な役回りを持ち、結果として構造にたどりつけるようにする。

今年度の重点を説明

視察していただいたプロジェクトに代表されるように、プレゼンテーションは上手くこなす。内容に構造を持たせる段階で、表面的な表現に力を配分しがち。デザイン負荷に耐えられる力を付ける。（スケッチ中心の動物園を前期から後期にかけて長くし、企画性の高い影絵・シール提案を後期にした。）

状況と結果の説明

スケッチ力低下のため、1年前期プロジェクトに遅れが出た。後期の終了時期にシール提案プロジェクトまで組み込むことができ、この時点での質と量の遅れは解消された。

2年のポートフォリオはある程度進んだ。プロジェクトはグラフィック作業に逃げるメンバーが目立ち、内容に構造を持たせることのできる学生は減少している。全体的に報告・連絡・相談のコミュニケーション不足になりがち。

3号議案 高校との接続性

連携プロジェクトで見える限り、うまくいっている様子。